自己評価の方法等について

法科大学院認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会

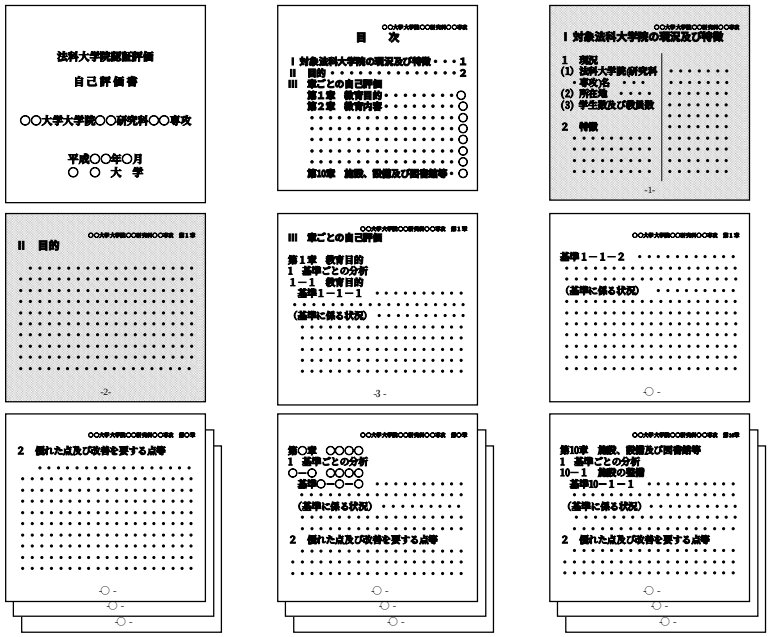
自己評価書の構成

1　対象法科大学院の現況及び特徴

2　目的

3　章ごとの自己評価

自己評価書イメージ（全体）



注）　　は、評価報告書に原則として原文のまま転載します。

1 対象法科大学院の現況及び特徴

（1） 現況

（ア） 法科大学院名

（イ） 所在地

（ウ） 学生数及び教員数（実施年度の5月1日現在）

（2） 特徴

法科大学院の沿革・理念を踏まえ、また、目的の背景となる考え方等も含めて、法科大学院の特徴が表れるように記述

◇ 記述様式

- 字数制限：2,000字以内（横25文字×縦40行×2段組）
- 明朝体9ポイントを使用

○○大学大学院○○研究科○○専攻

Ⅰ 対象法科大学院の現況及び特徴
1 現況
（1）法科大学院（研究科・専攻）名 ○○大学大学院○○研究科○○専攻
（2）所在地 ○○県 ○○市
（3）学生数及び教員数（平成○○年5月1日現在）
学生数：○○人
教員数：○○人（うち実務家教員○○人）

2 特徴
……

-1-

※ 評価報告書に原則として原文のまま記載します。

2　目的

（1）　目的

（ア）　教育上の理念・目的、養成しようとする法曹像等について記載
（イ）　現在、周知公表している目的、及びその目的から派生する内容も含めて法科大学院の個性や特色が評価に活かされるように記載

◇　記述様式
- 適宜、項立て、箇条書きにするなどわかりやすく記載
- 字数制限：2,000字以内　（横50文字×縦40行）
- 明朝体9ポイントを使用

○○大学大学院○○研究科○○専攻

Ⅱ　目的

1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

-2-

［法科大学院の目的］

教育上の理念・目的、養成しようとする法曹像等について記載してください。
適宜、項立てをしたり、箇条書きにするなど分かりやすく記載してください。

※　評価報告書に原則として原文のまま記載します。

3　章ごとの自己評価

第1章～第10章の自己評価

（1）　基準ごとの分析

解釈指針の内容を踏まえ「基準に係る状況」を記述

基準を満たしているかどうかの判断を行う必要はない。

（2）　優れた点及び改善を要する点等の記述

(1) 基準ごとの分析

(ア) 取組や活動の内容等について、当該基準の状況が明確になるよう、根拠となる資料・データ等を示しつつ、それぞれの状況に応じ記述

(イ) 予備評価においては、学年進行中であるため「基準に係る状況」の記述が十分にできない基準については、その現状や計画の状況を記述

「適切」、「適当」、「十分」、「相当」等の表現で示された基準や解釈指針

↓

法科大学院自らが考える「適切」性などに照らして、実際の状況がどのようになっているのか、十分な根拠に基づいて分析し、明確に記述

(ウ) 基準に対する自己評価の根拠となる資料・データ等

① 各基準に従って分析を行う際に必要と考えられる資料・データ等の例示（自己評価実施要項27－51頁）

例示は、あくまでも想定される資料・データ等であり、これらと同じものを求めるものではありません。各法科大学院が必要と判断するものを根拠としてください。

② 根拠となるデータを様式で求めるもの
（自己評価実施要項53－56頁）

(2) 優れた点及び改善を要する点等の記述

章ごとに、基準ごとの分析の中から法曹養成の基本理念や、法科大学院の目的に照らして、特に重要と思われる点を抽出し記述

- 「優れた点」
- 「特色ある取組」
- 「改善を要する点」等

◇ 記述様式

- 基準ごとの分析
  基準ごとに原則1,600字以内で記述（1，600字×54基準）
- 優れた点及び改善を要する点等
  章ごとに原則1,600字以内で記述（1，600字×10章）
- 全体で100,000字程度で調整可
  （字数制限を超える場合には、別途機構に相談）
- 根拠資料・データ等は字数制限に含まない
- 明朝体10．5ポイントを使用

◇　根拠となる資料･データ等の記載方法

① 本文中に記載した事項との関係が容易に確認できる位置に記載（資料･データの名称及び出典を明記）

② 必要最小限に整理（必要に応じて抜き出し、加工）

③ 本文中に記載することで、読みにくくなる場合には別添として記載可能（具体には、次ページのとおり）

④ 外部に持ち出すことが困難なもの等については、例示として必要最小限の範囲を記載→訪問調査時に確認

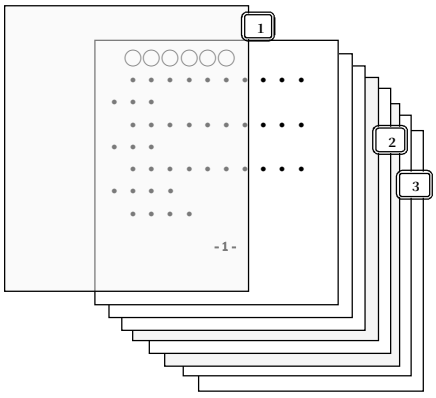
⑤ 根拠資料･データ等を本文中や別添として記載できない場合は機構に相談→訪問調査時に確認

自己評価書とは別添として別添ファイルを作成する場合

①自己評価書に添付

②自己評価書とは別冊

別冊とする別添資料イメージ



（合紙）にインデックスを貼る。

・資料ごとに資料番号のインデックスを貼付した紙（合紙）を挟み、自己評価書とは別冊として、ファイルに綴じてください。（資料自体にはインデックスを貼付しないでください。）

・別添資料の資料番号については、資料の該当基準の数字に関係なく、例えば、資料１、資料２、資料３…と通し番号で付してください。（ただし、番号については、自己評価書の本文との整合性をとってください。）

※　別添資料：根拠となる資料・データ等のうち、自己評価書の本文中に記載しないもの。

章ごとの自己評価

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻　第１章

III　章ごとの自己評価

第1章　教育目的

1　基準ごとの分析

1－1　教育目的

基準1－1－1　各法科大学院においては、その創意をもって、将来の法曹としての実務に必要な学識及びその応用能力並びに法律実務の基礎的素養を涵養するための理論的かつ実践的な教育が体系的に実施され、その上で厳格な成績評価及び修了認定が行われていること。

（基準に係る状況）・・

「データ名」

（出典・・・・）

基準1－1－2　各法科大学院の教育の理念、目的が明確に示されており、その内容が基準1－1－1に適合していること。各法科大学院の養成しようとする法曹像に適った教育が実施され、成果を上げていること。

（基準に係る状況）・・［解釈指針1－1－2－1］

「データ名」

（出典・・・・）

：

2　優れた点及び改善を要する点等

・・

－〇－

- 自己評価書様式ファイルに掲載済。
- 目的に照らし、解釈指針の内容を踏まえて、当該基準の状況が明確になるよう記述。
- 根拠となる資料・データ等は、状況説明等との関係が容易に確認できる位置に記載。（データ名、出典を必ず明記。）
- 解釈指針の該当箇所が明らかになるよう、解釈指針番号を明記。
- 以下、同様に、当該基準に係る状況について記述。
- 基準ごとの分析の中から、目的に照らして特に重要と思われる点を抽出し、記述。抽出する事項がない場合は「該当なし」と記述。

自己評価書（イメージ）

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

３－２　授業の方法

基準３－２－１

法科大学院における授業は，次に掲げるすべての基準を満たしていること。

（１）専門的な法知識を確実に修得させるとともに，批判的検討能力，創造的思考力，事実に即して具体的な問題を解決していくために必要な法的分析能力及び法的議論の能力その他の法曹として必要な能力を育成するために，授業科目の性質に応じた適切な方法がとられていること。

（２）１年間の授業の計画，各授業科目における授業の内容及び方法，成績評価の基準と方法があらかじめ学生に周知されていること。

（３）授業の効果を十分に上げられるよう，授業時間外における学習を充実させるための措置が講じられていること。

（基準３－２－１に係る状況）

・・【解釈指針３－２－１－１】【解釈指針３－２－１－２】・・・《資料〇〇〇参照》【解釈指針３－２－１－３】

資料〇〇〇「・・・・・・・・・・・・・・・・」

・・・・

・・

（出典：〇〇大学規程集）

- 解釈指針の該当箇所が明らかになるよう、解釈指針番号を明記
- 根拠となる資料・データ等は、状況説明等との関係が容易に確認できる位置に記載
- データ名、出典を必ず明記

１／２

自己評価書（イメージ）

○○大学大学院○○研究科○○専攻

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・【解釈指針３－２－１－４】
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《別添資料○シラバスP.○参照》
【解釈指針３－２－１－５】
・・・については、該当なし。【解釈指針３－２－１－６】

根拠資料・データ等を本文中に添付できない場合は、別添資料の○番の△頁と記載

「・・・の場合」といった条件が付されている基準及び解釈指針について、条件に該当しない場合には、「該当なし」と記述

２　優れた点及び改善を要する点等

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・

章ごとに、基準ごとの分析の中から特に重要と思われる点（優れた点、特色ある取組、改善を要する点など）を抽出して記述。

抽出する事項がない場合は「該当なし」と記述

以下、同様に第10章までの自己評価結果を記述　２／２

4　自己評価書の提出方法

(イ)　提出書類等

①　自己評価書：２０部

（Ａ４縦長・横書き、両面印刷、表紙裏面は白紙）

1) 本文（根拠となる資料・データ等を含む。）
2) シラバス（評価実施前年度分及び評価実施年度分）
3) 成績評価基準（評価実施前年度分及び評価実施年度分）
4) 成績分布データ（評価実施前年度分）
5) 自己評価実施要項の別紙2（別紙様式1～4）

②　自己評価書の電子媒体　1部

(ロ) 提出締切　平成１９年6月２９日(金) 必着

(ハ) 提出先　大学評価・学位授与機構評価事業部
封筒表面の左側部に「法科大学院認証評価自己評価書在中」と朱書き